

地域がん診療連携拠点病院（高度型）への推薦について

本県では、今後も高齢化の進展に伴いがん罹患数の増加が見込まれる中で、5つの国指定拠点病院が5つの県指定拠点病院と連携し、医師等のがん診療に携わる人材育成や診療設備の充実化等により県内のがん医療水準の向上に努めているところである。

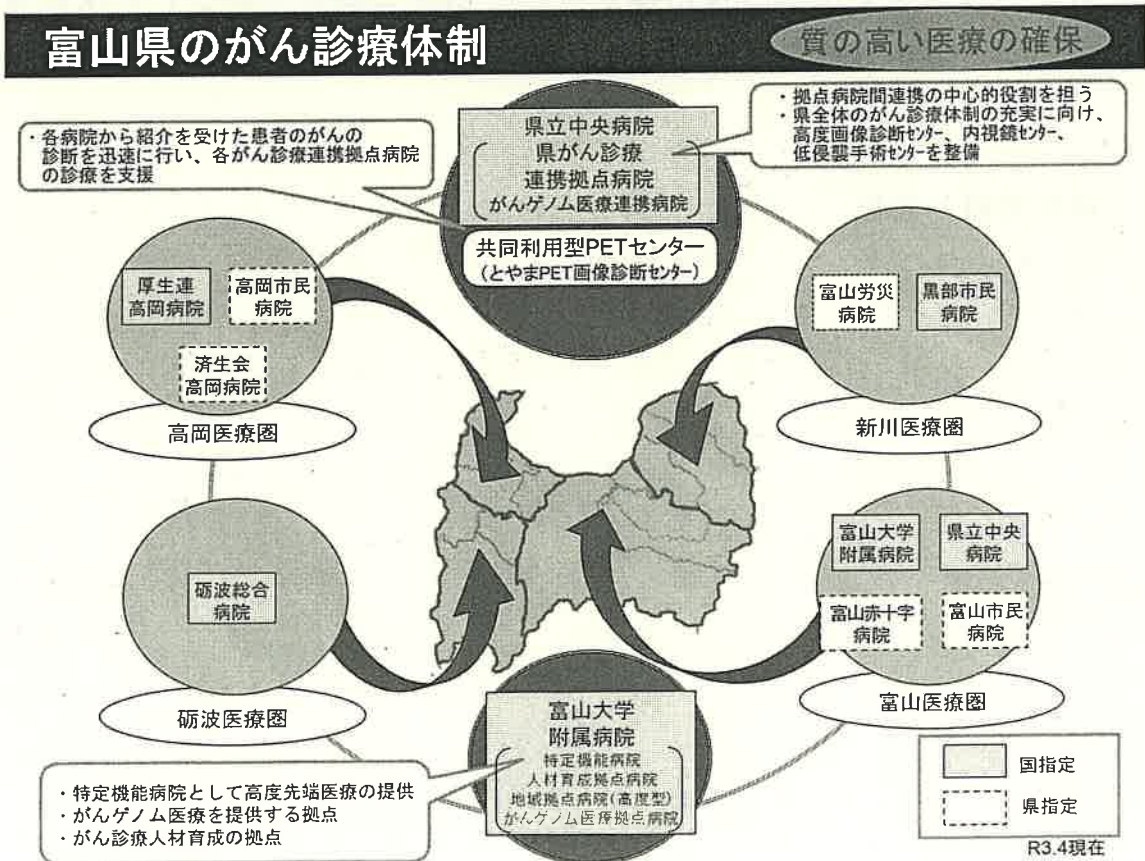
こうした中、現在、国指定を受けている厚生連高岡病院については、地域がん診療連携拠点病院（高度型）の指定要件をすべて充足している。

このことから、県民が安心して質の高いがん医療が受けられるよう、本県のがん診療体制をさらに推進するため、厚生連高岡病院について地域がん診療連携拠点病院から地域がん診療連携拠点病院（高度型）に指定類型を変更しての新規推薦を行うこととした。

なお、国においては、検討会の意見を踏まえ、指定の判断を行うこととされている。

※地域がん診療連携拠点病院（高度型）の指定要件と厚生連高岡病院の充足状況

指定要件	充足状況
・地域拠点病院の指定要件において、「望ましい」とされる要件を複数満たしていること	○
・同一医療圏に複数の地域拠点病院がある場合には、診療実績が当該医療圏において最も優れていること	○
・強度変調放射線療法や核医学治療等の高度な放射線治療を提供できること	○
・緩和ケアセンターに準じた緩和ケアの提供体制を整備していること	○
・相談支援センターに看護師や社会福祉士、精神保健福祉士等の医療従事者を配置し、相談支援業務の強化が行われていること	○
・医療に係る安全管理体制について第三者による評価を受けているか、外部委員を含めた構成員からなる医療安全に関する監査を目的とした監査委員会を整備していること	○



がん診療連携拠点病院新規指定推薦意見書（案）

富 山 県

全国より早く高齢化が進展する本県のがん罹患率は全国を上回って推移しており、さらに今後の高齢化に伴い、認知症等他疾患を併発するがん患者の増加が見込まれる中で、今後とも県民が安心して質の高いがん医療を受けられるようにするためには、本県の拠点病院がこれまで担ってきた、各医療圏におけるがん診療拠点としての役割を継続・強化していくことが必要です。

本県の4つの医療圏のうち、高岡医療圏では、厚生連高岡病院が圏域内に居住するがん患者の約43%を診療しています。また、高岡医療圏と砺波医療圏を合わせた県西部において、最も多くの診療実績を有しており、県西部の中核病院となっています。

富山県としては、住民が身近な地域で安心して質の高い医療を受けることができるよう、高岡医療圏におけるがん診療体制の強化が必要と考えておりますので、厚生連高岡病院の指定類型を変更しての新規指定につきまして特段のご配慮をお願いいたします。

添付資料 別紙

1. 富山県におけるがん診療連携拠点病院の整備の考え方について

(1) 県計画等における位置付け

本県では、がんの克服を疾病対策の重要課題と位置付け、国の「がん対策推進基本計画」に基づき、「富山県がん対策推進計画」を策定し、「予防の強化と早期発見の推進」「質の高い医療の確保」「患者支援の充実」の3つを重点課題として、総合的ながん対策を推進してきた。

現在の第3期計画においては、がん診療連携拠点病院（以下「拠点病院」という。）が連携協力し、病院毎の特性を活かしながら、二次医療圏毎に、集学的医療、緩和ケア、在宅療養支援を提供できる体制を構築し、患者支援体制の充実及び県全体のがん医療水準のさらなる向上を図ることとしている。

(2) 本県のがん診療連携拠点病院の連携体制

- 本県では、医療圏毎の医療機関が連携して、限られた医療資源及び機能を相互補完している。すなわち、研修会の開催等の人材育成やがん情報の収集と発信等を始めとする患者支援体制の構築に複層的に取り組むことにより、県内の各病院の機能を“点”から“面”として機能させ、県全体のがん医療水準の向上を図っている。
- 専門的な機能としては、県がん診療連携拠点病院である県立中央病院と特定機能病院の富山大学附属病院が、2次医療圏の地域がん診療連携拠点病院と連携し、難治性がん、特殊ながん、小児がん等の治療に対応している。
- また、がんゲノム医療を提供する医療機関として、富山大学附属病院ががんゲノム医療拠点病院に、富山県立中央病院ががんゲノム医療連携病院に指定されている。
- こうした連携拠点病院間の連携体制を推進するため、「富山県がん診療連携協議会」（事務局：県立中央病院）を設置するとともに、「研修」「がん登録」「相談支援」「地域連携クリティカルパス」「緩和ケア」の5つの部会を置いて、各病院間及び病院の枠を超えた人的ネットワークの連携強化を図ることを通じ、各病院それぞれの取組みを強力に後押ししている。

2. 厚生連高岡病院について

厚生連高岡病院は圏域内に居住するがん患者の約43%を診療している。また、高岡医療圏と砺波医療圏を合わせた県西部において、最も多くの診療実績を有しており、県西部の中核病院となっている。

5大がんの1つの肺がん診療においては、県西部高岡・砺波両医療圏で発生する患者の8割程度を診療しており、圏域内のがん診療を行う病院と、連携体制（高岡砺波医療圏肺がん診療連携）を構築している。

専従かつ常勤の放射線治療専門医を2名配置し、新規治療計画の8割程度を強度変調放射線治療として行っており、治療の実施に当たっても画像誘導下に高精度の照射を行っている。

専従のゼネラルマネージャーを配置した緩和ケアセンターを設置し、緩和ケアチーム、外来、病棟、緊急病床を有機的に統合している。緩和ケア病棟は、急性期病院の病棟として、難しい症状コントロール、在宅療養へ向けての支援を積極的に実施し、希望する患者・家族の在宅緩和ケアに向けて、地域医療機関・介護事業者とも協力して、在宅療養の実現に努めている。

相談支援センターには、相談員として長きにわたってがん診療に携わっている看護師及び社会福祉士を配置している。県の総合相談支援センターの養成するピアサポーターの参加も得て、定期的ながんサロンを開催している。

医療安全管理体制について、日本病院機能評価機構の第三者評価を受審し、認定を受けている（一般病院2、2020年12月4日更新）。

DaVinci ロボット手術システムの最上位機種 (Xi) を導入し、泌尿器がん、消化器がんの低侵襲手術に広く活用している。泌尿器がんでは2020年度実績で計71件(前立腺全摘49、腎部分切除17、膀胱全摘5)のロボット手術を実施。また、直腸がんに対してはすでに通算で120例、胃がんがんで25例のロボット手術を実施。

3. 今後の富山県のがん診療体制

引き続き、都道府県がん診療連携拠点病院として県立中央病院が拠点病院間連携の中心的役割を担い、地域がん診療連携拠点病院(高度型)として富山大学附属病院、厚生連高岡病院、地域がん診療連携拠点病院として黒部市民病院、市立砺波総合病院の5病院から成るがん診療体制により、高齢社会に対応した包括的ながん診療を提供することで、県民が安心して質の高いがん医療が受けられる体制の充実に取り組む。

富山県のがん診療体制

質の高い医療の確保

